

受験番号

名前

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学校を卒業する年の夏、太一は与吉じいさに弟子にしてくれるようたのみに行った。与吉じいさは、太一の父が死んだ瀬に、毎日一本づりに行っている漁師だった。

「わしも年じゃ。ずいぶん魚をとってきたが、もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなくなっとる。」  
「年を取ったのなら、ぼくをつえの代わりに使ってくれ。」

こうして①太一は、無理やり与吉じいさの弟子になったのだ。

与吉じいさは瀬に着くや、小イワシをつり針にかけて水に投げる。それから、ゆっくりと糸をたぐっていくと、ぬれた金色の光をはね返して、五十センチもあるタイが上がってきた。バタバタ、バタバタと、タイが暴れて尾で甲板を打つ音が船全体を共鳴させている。

②太一は、なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった。つり針にえさを付け、上がってきた魚からつり針を外す仕事ばかりだ。つりをしながら、与吉じいさは独り言のように語ってくれた。

「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」  
与吉じいさは、毎日タイを二十びきとると、もう道具を片づけた。

季節によって、タイがイサキになったりブリになったりした。

③弟子になって何年もたったある朝、いつものように同じ瀬に漁に出た太一に向かって、与吉じいさはふっと声をもらった。そのころには、与吉じいさは船に乗ってこそきたが、作業はほとんど太一がやるようになっていた。

「自分では気づかないだろうが、おまえは村一番の漁師だよ。太一、ここはおまえの海だ。」

船に乗らなくなった与吉じいさの家に、太一は漁から帰ると、毎日魚を届けに行った。真夏のある日、与吉じいさは暑いのに、毛布をのどまでかけてねむっていた。④太一は全てをさとった。

「海に帰りましたか。与吉じいさ。心から感謝しております。おかげさまでぼくも海で生きられます。」

悲しみがふき上がってきたが、今の太一は自然な気持ちで、顔の前に⑤両手を合わせることができた。父がそうであったように、与吉じいさも海に帰っていったのだ。

(立松和平「海の命」より)

問一 ①「太一は、無理やり与吉じいさの弟子になった」とありますが、なぜ「無理やり」なのでしょう。次の文の( )に当てはまる言葉を書きなさい。

与吉じいさはもう( ) ( )なので( ) ( )をやめようと考えていたから。

問二 ②「太一は、なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった」とありますが、なぜだと考えられますか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 与吉じいさは、太一に漁師になることをあきらめさせようと思っていたから。

イ 与吉じいさは、太一がまだ中学生で危険だと思っていたから。

ウ 与吉じいさは、太一にまず見ることから漁師の仕事を覚えさせようと思っていたから。

エ つり糸をにぎるのは師である与吉じいさの仕事で、弟子である太一がその手伝いをするのは当然だったから。

問三 ③「弟子になって何年もたった」とありますが、そのころ与吉じいさは太一のことをどう思っていましたか。文章から六字で書きぬきなさい。

( ) ( )

問四 ④「太一は全てをさとった」とありますが、どんなことをさとったのですか。

( ) ( )

問五 ⑤「両手を合わせることができた」とありますが、このとき太一は、与吉じいさがどうなったと考えていますか。( )と考えている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「オーロラは極地の光」と言われるように、オーロラは寒い地方に発生すると思っている人が多いかもしれませんが。

( ① ) 実際には、オーロラの発生に地上の気温は関係していません。高緯度地域は確かに寒いので、オーロラ見物にそれなりの寒さ対策は必要ですが、寒いからオーロラが現れるというわけではないのです。

またオーロラは、地球の極を取り巻く半径1500〜5000キロメートルのベルト状に現れるので、②極まで行ってしまうと、オーロラの発生はむしろ少なくなります。( ③ )、ここで極というのは地球の磁場の極のことで、④地理上の極とは異なります。北半球の磁場の極は、地理上の北極点からアメリカ大陸の東海岸寄りに約十一度傾いた、グリーンランド北西部にその中心があります。そのため、アメリカやカナダの東部ではそれほど高緯度でなくてもオーロラを見物できるというわけです。同じように、磁南極も地理上の南極とずれています。いずれにしろ、オーロラが一番見える場所は寒い高緯度地域です。

このように、極地域の人びとはオーロラを見慣れているため、旅行業にでもたずさわっていない限り、⑤オーロラに特に関心がないのが普通です。

逆に、高緯度に住む人たちからよく聞かれるのは、オーロラから何キロメートルも離れている日本では、どうして一般の人がオーロラに興味があるのかということですが、日本はオーロラの舞台から遠く離れているからこそ、憧れに似た好奇心が強いのでしょう。また、教育の問題もあります。学校の理科では、宇宙科学、地球科学にオーロラが組み込まれ、この不思議な光が奇跡的なプロセスを経て極地に光ることを学習します。学校だけではなく、科学館や特別イベントでも、オーロラの美しさをアピールしています。オーロラのテレビ番組も多く制作され、旅行社のパンフレットにもオーロラの原理が記載されています。⑥このような環境では、多くの国民が本物のオーロラを見たくないのでしょう。

(上出洋介「オーロラ 宇宙の渚をさぐる」より)

※極地：南極および北極地方 磁南極：南半球の磁場の極

逆説的：普通とは反対の方向から考えを進めるさま

問一 ( ① ) ( ③ ) に入る言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ たとえば エ ただし オ あるいは

( ①… ) ( ③… )

問二 ②「極まで行ってしまうと、少なくなります。」とありますが、極でオーロラの発生が少なくなる理由を説明し

た次の文の ( a ) ( b ) に入る最も適切な言葉を文章中から a は四字、b は二字で書きぬきなさい。

・オーロラは、極を取り巻いて ( a ) ( ) に発生するものなので、( b ) ( ) である極ではオーロラが発生しにくいから。

問三 ④「地理上の極」とありますが、北半球の地理上の極はどこですか。文章中から三字で書きぬきなさい。

( ) ( )

問四 ⑤「オーロラに特に関心がない」とありますが、「極地域の人びと」がオーロラに特に関心がない理由を文章中から十三字で書きぬきなさい。

( ) ( )

※問題はその三に続きます。



